授業科目　教育相談

| 【担当教員名】 | 対象学年 | 3 4 | 対象学科 | ｽﾎﾟ |
|---|---|---|---|---|
| 山崎　史恵 | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】
教育相談には、児童・生徒が示す様々な問題行動へのカウンセリングの他、進路相談、障害児の療育相談、心理療法等が含まれる。また、保護者との面接（相談や助言）も重要な領域となっている。本授業では、カウンセリングに関する基本的な知識の解説のみならず、可能な限り具体的な事例や状況を想定し議論するなど、教育相談の実践力を高めるための授業を展開する。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1. 教育相談の領域と独自性、効用、および限界について学ぶ。
2. 児童・生徒の発達段階に応じた教育相談活動を行うための基礎知識を得る。
3. 教育相談に必要となる基本的なカウンセリングの理論・技法を身につける。
4. 具体的な教育相談の事例に対応する実践力を養う。
5. 保護者に対して教育相談を行う際の基本的態度と留意点を学ぶ。
6. 他の専門家と連携を取る際の基本的態度と留意点を学ぶ。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション：教育相談の役割 | 1 | 講義 |
| 2 | 子供（児童・生徒）の問題・課題をどう捉えるか？ | 1 | 講義 |
| 3 | 教育相談の枠組みと構造 | 1 | 講義 |
| 4 | 幼児期・児童期の教育相談の特徴と役割 | 2 | 講義 |
| 5 | 思春期・青年期の教育相談の特徴と役割 | 2 | 講義 |
| 6 | 養護学校等における教育相談の特徴と役割 | 2 | 講義 |
| 7 | 教育相談・カウンセリングの理論と基礎技法（１） | 3 | 講義・小レポート |
| 8 | 〃　（２） | 3 | 講義・小レポート |
| 9 | 教育相談の実際（１）：学習 | 4 | 講義・小レポート |
| 10 | 〃　（２）：心身の健康 | 4 | 講義・小レポート |
| 11 | 〃　（３）：不適応行動 | 4 | 講義・小レポート |
| 12 | 〃　（４）：進路指導 | 4 | 講義・小レポート |
| 13 | 保護者との相談活動 | 5 | 講義・小レポート |
| 14 | スクールカウンセラーや他機関（教育研究機関、相談機関、医療機関）との連携 | 6 | 講義 |
| 15 | 期末試験 | | 期末試験 |

| 【使用図書】 | <書名>　<著者名>　<発行所>　<発行年・価格・その他> |
|---|---|
| 教科書（必ず購入する書籍） | 特になし（適宜、資料を配付） |
| 参考書 | 学校教育相談　（ＭＩＮＥＲＶＡ教職講座１０）、一丸藤太郎・菅野信夫（編）、ミネルヴァ書房、2002年、2<br>学校カウンセリング、氏原寛・谷口正己、東山弘子（編）ミネルヴァ書房、1991年、1,890円（税込） |
| その他の資料 | |

【評価方法】
出席状況10%、授業態度10%、レポート30%、期末試験50%

【履修上の留意点】